

理科

基本メニュー (☆☆☆) …必ずやりましょう。

	チェック
① 週テストを解き直す	
② 授業用テキストを読み直す (太字になっている部分は書いて覚えるとよい)	
③ 宿題用テキストの基本問題Aと基本問題B	

応用メニュー (☆☆) …基本メニューが全て終わって余裕があればやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題A	

発展メニュー (☆) …チャレンジしたい人はやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題B	

担当より一言

今回は植物のはたらき(1)について学びました。

まずは光合成について、必要な材料が二酸化炭素と水、光のエネルギーを利用してつくられるものが酸素とでんぷんであることは必ず覚えましょう。注意したいのは、「光合成に必要な物質は何ですか。」という問題で、光と答えてはいけないということです。光はエネルギーを利用しているだけなので、二酸化炭素と水と答えましょう。

ヨウ素液はでんぷんと反応して青紫色に変化します。青色や紫色と間違えないようにしましょう。

光合成の実験は、まずは手順を覚えること、そして実験で行う作業とその理由をセットで確認しておくことが大切です。実験手順のページを読み込むようにすると良いでしょう。

光合成によってできたでんぷんは、植物によってたくわえる部分が異なります。例えばサツマイモであれば根、ジャガイモであれば茎となります。実際に私たちが食べている部分だということを理解し、買い物などで野菜を買う際には、これは根の部分を食べているんだっとな、などと普段の生活から意識できると定着しやすくなります。

社会

基本メニュー（☆☆☆）…必ずやりましょう。

	チェック
① 第36回授業用テキストを読み直し、基本問題を解く前に少しでも覚える。	
② 第36回宿題用テキスト 書き込み教科書	
③ 第36回宿題用テキスト 基本問題A・B	
④ 第36回週テストの見直し（間違えた問題の見直し）	

応用メニュー（☆☆）…基本メニューが全て終わって余裕があればやりましょう。

	チェック
① 第36回宿題用テキスト 練習問題A・B	

発展メニュー（☆）…チャレンジしたい人はやりましょう。

	チェック
① 第36回発展問題	

担当より一言

今回は、「水産業(2)」で、水産業の歴史や水産物の輸入について学びました。

漁業別の漁獲量のグラフは入試でもよく出題されます。まずは、どの漁業のグラフかをすぐ見分けられるようにしましょう。そのうえで、遠洋漁業や沖合漁業が衰えた時期を知り、その理由を説明できるようにしましょう。とくに遠洋漁業については、「石油危機」「排他的経済水域」の2つと結びつけておくことが大切です。

日本の漁業は徐々に衰えてきています。日本で働いている人のうち、漁業にたずさわっている人は、わずか0.2%しかいません。漁獲量も減ってきていますね。どのように解決していくのでしょうか。

とる漁業に対して、注目されているのは「育てる漁業」とよばれるものです。いけすで成魚まで育てる養殖業、稚魚まで育てて放流して大きくなったところでのる栽培漁業を指します。どのように違うのか、そしてそれぞれのよい点や課題となっている点を説明できるようにしておきましょう。さらに、養殖業に関しては、都道府県別の順位を覚えておくことも必要です。余裕があれば細かいところまで覚えてほしいのですが、まずは太字のところや表のAランクを中心に学習しましょう。近年では養殖が難しいとされてきたマグロやウナギの養殖もできるようになっています。

また、日本の漁獲量が減っていくとともに増えたのが水産物の輸入です。輸入水産物は、日本の漁獲量不足を補うだけでなく、日本人の多様な食生活を支えています。しかし、食料自給率のところで学んだように、外国に頼りきりになるのは問題もあります。世界的に見ても水産物を多く食べている日本人ですが、この先も同じように食べるためには、多くの課題があります。